資料７

「マンガサミット運営」

及び

「日本マンガ資料館」設立計画について

平成 19 年 3 月 29 日

知的財産戦略本部

里中　満智子

「マンガサミット運営」

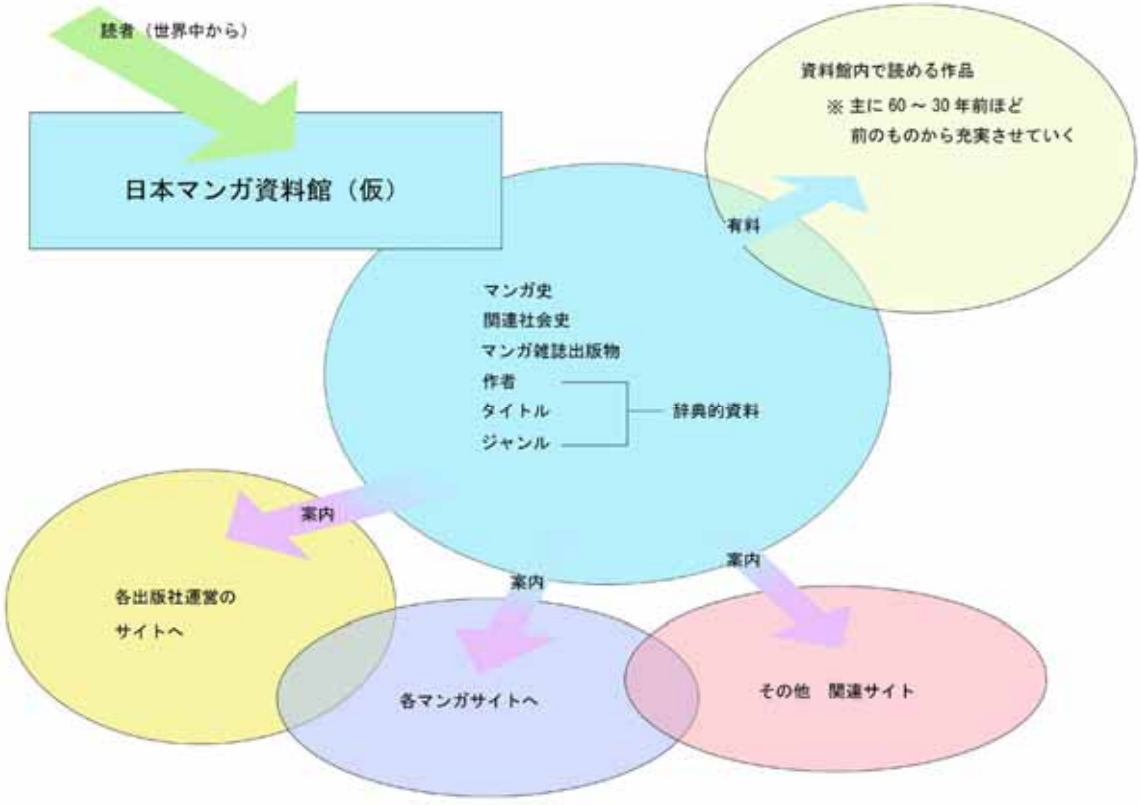
1996 年より東アジア 5 地域（日、韓、中国、香港、台湾）のマンガ家達に呼びかけて「文化交流」「感動の共有」「著作権」をキーワードに合同の展示会や研究会を開催、発足当時の 5 地域が理事となり、世界中のマンガ界に呼びかけて参加を募り、5 地域で大会を開いている。今では参加国 26 を数えるまでに成長

第 1 回　1996 年　日本　いわき市
第 2 回　1997 年　韓国　ソウル市
第 3 回　1999 年　台湾　新竹市
第 4 回　2000 年　香港
第 5 回　2002 年　日本　横浜市
第 6 回　2004 年　中国　北京市
第 7 回　2005 年　韓国　富川市
第 8 回　2007 年　香港（予定）
第 9 回　2008 年　日本　京都市（予定）

運営費は開催国の負担。日本は全て漫画家達の自助努力による資金調達だが他の地域（特に中国、韓国）は国や行政のバックアップに支えられている。その理由が「マンガビジネスによる経済効果」と「世界にマンガ文化を発信する中心地になりたい」という国の政策によるところが大きい。日本は NPO 組織にして努力しているが運営は苦しい。

また、我が国のマンガの歴史を築き上げて来た日本のマンガ作品の多くが、現在読む事が出来ないままになっている。ごく一部の超有名作品は繰り返し出版されているが他はごく一部の復刻版や収集家に資料を頼るしかない。マンガ家自身の死去や高齢化により原画の散逸もあり、また出版物は年々劣化するのでいずれ「日本マンガの歴史」は検証不能に陥ってしまう不安がある。100 年後に「マンガルネッサンス検証」が可能なシステムが必要。全てのマンガ作品を今のうちにデジタル化して WEB 上で世界中からアクセス可能な資料館を設立したい。世界から「マンガのリーダー国」と見なされている我が国は世界中からの資料の問い合わせに応じられる組織が必要不可欠。マンガ文化の中心地としての自覚と誇りのためにも設立が急がれる。

※　マンガ家、出版社からの賛同を得て「設立準備委員会」を 2006 年に設立、メディア芸術祭を運営している CG アーツ協会に運営を内諾して頂いているが実際は資金面での充実が難関となっている。



↑運営内容説明図